

「建国と主権回復」

そして「陸軍記念日」

理事長 富澤 暉

2月号のコラムで「神話に基づいて建国日を決めている国は日本以外にない」と述べたが、これは誤りであり訂正し、深くお詫び申し上げます。

韓国では「光復節」と「開天節」が並び祝われている。「光復節」は8月15日、即ち日本の統治から解放(光復)された独立記念日であるが、「開天節」

は紀元前2333年、朝鮮民族の建国神話で壇君が古朝鮮王国を建国したとされる日(10月3日)を祝い「天に感謝する日」とされている。実は、「開天節」が祝われ始めたのは1900年頃からと新しく、古来の「秋の収穫祭」に合わせて当時の新興宗教によって広められた。1910年の日本による併合が、朝鮮民族の心のよりどころとしての壇君神話を強化し、「開天節」は更に盛んになったともいう。

また、2013年に政府主催で行われた「主権回復」記念式典に触れた。この日が今日なお「祝日」にならない理由の第一は、講和条約発効の1952年4月28日に、奄美(53年復帰)小笠原(68年復帰)、沖縄(72年復帰)等の諸地域が未返還であったことにあ

る。

当時、奄美ではこの日を「痛恨の日」と定め巾旗を掲げ、沖縄では、県民にとつての「屈辱の日」としていたのである。

更に第二の理由として、2月11日と4月28日の両日が同様の建国記念日となった場合、その二つの祝日の関係説明が難しくなる、ということもあった。ともあれ韓国の「開天節」は、今も庶民によって祝われているのに、日本では、「建国記念の日」を家族・友人とともに祝う国民が殆どいないことが問題なのである。

話は変わるが、3月10日は「陸軍記念日(奉天開城の日)」である。その日、偕行社はグラントヒル市ヶ谷において元自衛官会員会同を実施する。

その会同で、赤松義隆氏(陸自57)、志方俊之氏(陸自58)、曾我政弘氏(陸自58)にプレミアムスピーチをお願いした。ご三方はそれぞれ異なった自衛隊でのご経験をもち、自衛隊を離れてからのご経歴もまた独特のものをお持ちである。

「帝國陸軍と自衛隊の繋がり」「自衛隊の精強化と国民の理解」は我が偕行社最大のテーマである。特に「国民の中の陸上自衛隊」について、ご三方からご意見をお聞きし、会員同士の議論の資としたい。